

## 1 人口動態統計

人口動態調査は、統計法による基幹統計調査として実施されており、「戸籍法」及び「死産の届け出に関する規程」に基づき、各市区町村長に届け出のあった出生、死亡、婚姻、離婚及び死産の5種類の届出書等から、人口動態調査令により各調査票を作成する方法で行われています。

人口動態調査は国勢調査と並び、我が国の主要な統計の一つであり、各種行政施策の基礎資料として極めて重要な役割を果たしています。

### (1) 全道概況

平成28年の北海道の人口動態統計は、平成27年と比較して、死亡件数は増加し、出生・死産件数は減少しています。婚姻件数・離婚件数は減少しています。

出生数は、平成7年に大正・昭和・平成をとおして初めて5万人を割り込みましたが、その後も減少傾向が続き、平成28年は35,125人と前年より1,570人減少しました。

死亡数は1,239人増加して61,906人となり、出生数から死亡数を差し引いた自然増加数は、マイナス26,781人で、初めて自然減となった平成15年に続いて14年連続の自然減となりました。(表1)

表1 人口動態統計の概況

	実 数				比 率		平均発生間隔	
	28年	27年	増減	増減率	28年	27年	28年	27年
出生	35 125	36 695	-1 570	-4.3	6.6	6.8	日 時 分 秒	日 時 分 秒
死亡	61 906	60 667	1 239	2.0	11.6	11.3	0:15:00	0:14:19
乳児死亡	76	73	3	4.1	2.2	2.0	5:19:34:44	5:00:00:00
新生児死亡	33	36	-3	-8.3	0.9	1.0	10:2:10:55	10:3:20:00
周産期死亡	117	152	-35	-23.0	3.3	4.1	2:3:04:37	2:9:37:54
妊娠満22週以後の死産	89	126	-37	-29.4	2.5	3.4	#DIV/0!	#DIV/0!
早期新生児死亡	28	26	2	7.7	0.8	0.7	14:1:42:51	14:0:55:23
死産	901	1 057	-156	-14.8	25.0	28.0	9:44:57	8:17:15
自然死産	345	420	-75	-17.9	9.6	11.1	1:27:39	20:51:26
人工死産	556	637	-81	-12.7	15.4	16.9	15:47:55	13:42:51
婚姻	24 636	25 465	-829	-3.3	4.6	4.8	0:21:24	0:20:38
離婚	10 476	11 211	-735	-6.6	1.97	2.09	0:50:19	0:46:53

注1) 比率

乳児・新生児死亡率…出生千対、周産期死亡率…(出生+妊娠満22週以後の死産)千対

死産率…出産(出生+死産)千対

その他…人口千対

2) 率算出に用いた人口は、各年10月1日現在の推計日本人口(総務省統計局)27年は、国勢調査日本人口。

### (2) 二次保健医療福祉圏別概況

二次保健医療福祉圏別に各事象の比率をみると、出生では根室圏が7.3と最も高く、東胆振圏の7.2と続き、最低は北渡島檜山圏と南空知圏の4.9となっています。

死亡では南檜山圏が16.9と最も高く、中空知圏16.4、北渡島檜山圏15.9、北空知圏15.6と続き、最低は札幌圏の9.5となっており、乳児死亡では留萌圏が13.9と最も高く、発生件数の無い圏域は南檜山圏、南空知圏、中空知圏、北空知圏、上川北部圏、富良野圏、宗谷圏となっています。

死産では、南檜山圏が45.5と最も高く、北渡島檜山圏42.1と続き、最低は中空知圏10.7となっています。

婚姻では、東胆振圏が5.2と最も高く、札幌圏5.1と続き、最低は北空知圏の2.5となっています。

また、離婚では釧路圏が2.26と最も高く、最低は留萌圏の1.15となっています。(表2)

表2 二次保健医療福祉圏の人口動態

二次保健 医療福祉圏	出生	死亡	乳児死亡 (再掲)	新生児 死亡 (再掲)	周産期死亡			死産	婚姻	離婚
					総数	妊娠満22週 以後の死産	生後1週 未満死亡			
全道計	35 125	61 906	76	33	117	89	28	901	24 636	10 476
南渡島	2 173	5 296	5	4	10	7	3	81	1 593	786
南檜山	126	400	0	0	0	0	0	6	70	45
北渡島檜山	182	591	1	1	1	0	1	8	123	48
札幌	16 702	22 504	39	17	59	45	14	413	12 111	4 872
後志	1 135	3 234	1	1	6	5	1	32	777	332
南空知	816	2 431	0	0	1	1	0	14	548	264
中空知	556	1 778	0	0	0	0	0	6	392	165
北空知	167	508	0	0	0	0	0	3	81	47
西胆振	1 117	2 677	3	1	1	1	0	30	812	297
東胆振	1 519	2 226	1	0	5	5	0	37	1 089	470
日高	469	935	2	0	1	1	0	18	263	142
上川中部	2 551	4 801	3	1	8	7	1	75	1 700	803
上川北部	403	890	0	0	2	2	0	10	261	85
富良野	272	520	0	0	0	0	0	5	172	78
留萌	287	724	4	1	2	1	1	6	158	55
宗谷	420	942	0	0	1	1	0	10	315	117
北網	1 386	2 681	5	3	5	2	3	29	916	414
遠紋	419	1 058	2	0	1	1	0	6	266	114
十勝	2 447	3 857	6	2	5	3	2	53	1 541	645
釧路	1 426	2 963	3	1	6	5	1	46	1 070	533
根室	552	890	1	1	3	2	1	13	378	164
			比	率						
全道計	6.6	11.6	2.2	1.0	3.3	2.5	0.8	25.0	4.6	1.97
南渡島	5.7	13.9	2.3	1.8	4.6	3.2	1.4	35.9	4.2	2.07
南檜山	5.3	16.9	-	-	-	-	-	45.5	3.0	1.90
北渡島檜山	4.9	15.9	5.5	5.5	5.5	-	5.5	42.1	3.3	1.29
札幌	7.1	9.5	2.3	1.0	3.5	2.7	0.8	24.1	5.1	2.06
後志	5.3	15.1	0.9	0.9	5.3	4.4	0.9	27.4	3.6	1.55
南空知	4.9	14.6	-	-	1.2	1.2	-	16.9	3.3	1.59
中空知	5.1	16.4	-	-	-	-	-	10.7	3.6	1.52
北空知	5.1	15.6	-	-	-	-	-	17.6	2.5	1.44
西胆振	5.9	14.2	2.7	0.9	0.9	0.9	-	26.2	4.3	1.57
東胆振	7.2	10.5	0.7	-	3.3	3.3	-	23.8	5.2	2.22
日高	6.8	13.6	4.3	-	2.1	2.1	-	37.0	3.8	2.07
上川中部	6.5	12.2	1.2	0.4	3.1	2.7	0.4	28.6	4.3	2.04
上川北部	6.1	13.4	-	-	4.9	4.9	-	24.2	3.9	1.28
富良野	6.4	12.3	-	-	0.0	-	-	18.1	4.1	1.84
留萌	6.0	15.2	13.9	3.5	6.9	3.5	3.5	20.5	3.3	1.15
宗谷	6.3	14.1	-	-	2.4	2.4	-	23.3	4.7	1.75
北網	6.2	12.1	3.6	2.2	3.6	1.4	2.2	20.5	4.1	1.86
遠紋	6.0	15.1	4.8	-	2.4	2.4	-	14.1	3.8	1.63
十勝	7.1	11.3	2.5	0.8	2.0	1.2	0.8	21.2	4.5	1.88
釧路	6.0	12.6	2.1	0.7	4.2	3.5	0.7	31.3	4.5	2.26
根室	7.3	11.7	1.8	1.8	5.4	3.6	1.8	23.0	5.0	2.16
			割	合						
全道計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
南渡島	6.2	8.6	6.6	12.1	8.5	7.9	10.7	9.0	6.5	7.5
南檜山	0.4	0.6	-	-	-	-	-	0.7	0.3	0.4
北渡島檜山	0.5	1.0	1.3	3.0	0.9	-	3.6	0.9	0.5	0.5
札幌	47.6	36.4	51.3	51.5	50.4	50.6	50.0	45.8	49.2	46.5
後志	3.2	5.2	1.3	3.0	5.1	5.6	3.6	3.6	3.2	3.2
南空知	2.3	3.9	-	-	0.9	1.1	-	1.6	2.2	2.5
中空知	1.6	2.9	-	-	-	-	-	0.7	1.6	1.6
北空知	0.5	0.8	-	-	-	-	-	0.3	0.3	0.4
西胆振	3.2	4.3	3.9	3.0	0.9	1.1	-	3.3	3.3	2.8
東胆振	4.3	3.6	1.3	-	4.3	5.6	-	4.1	4.4	4.5
日高	1.3	1.5	2.6	-	0.9	1.1	-	2.0	1.1	1.4
上川中部	7.3	7.8	3.9	3.0	6.8	7.9	3.6	8.3	6.9	7.7
上川北部	1.1	1.4	-	-	1.7	2.2	-	1.1	1.1	0.8
富良野	0.8	0.8	-	-	-	-	-	0.6	0.7	0.7
留萌	0.8	1.2	5.3	3.0	1.7	1.1	3.6	0.7	0.6	0.5
宗谷	1.2	1.5	-	-	0.9	1.1	-	1.1	1.3	1.1
北網	3.9	4.3	6.6	9.1	4.3	2.2	10.7	3.2	3.7	4.0
遠紋	1.2	1.7	2.6	-	0.9	1.1	-	0.7	1.1	1.1
十勝	7.0	6.2	7.9	6.1	4.3	3.4	7.1	5.9	6.3	6.2
釧路	4.1	4.8	3.9	3.0	5.1	5.6	3.6	5.1	4.3	5.1
根室	1.6	1.4	1.3	3.0	2.6	2.2	3.6	1.4	1.5	1.6

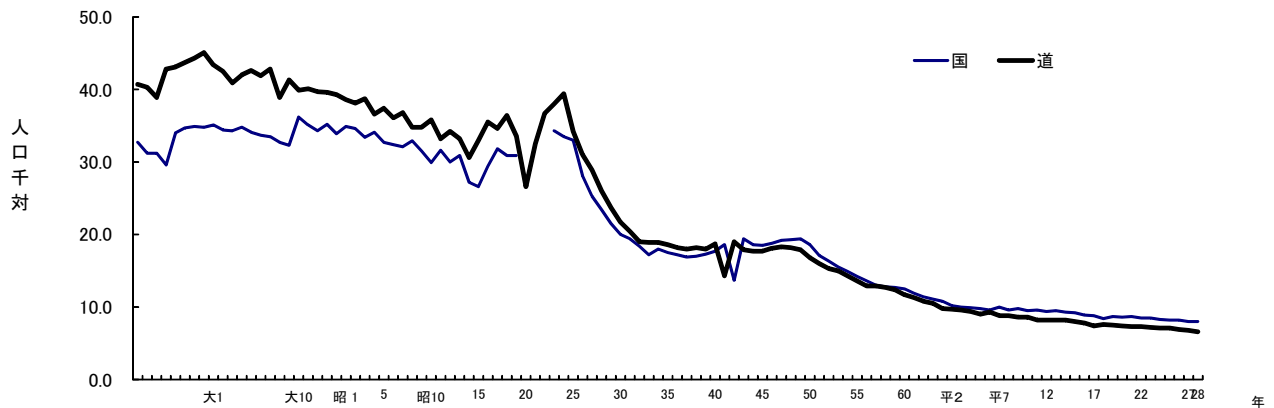
(3) 出生

平成28年の出生数は35,125人で、前年の36,695人より1,570人減少し、出生率（人口千対）は6.6でした。性別出生数は男17,888人、女17,237人となっています。

出生率の年次推移をみると、第一次ベビーブームの昭和24年の出生率は戦後最高の39.4を記録しています。その後急激に減少し、昭和32年には19.0まで減少しました。以後ほぼ横ばい状態で推移していましたが、昭和50年以降再び減少傾向に転じました。平成28年の出生率は6.6で、過去最低になりました。

また、全国値の7.8と比較して1.2下回っています。（図1）

図1 出生率の年次推移（人口千対）



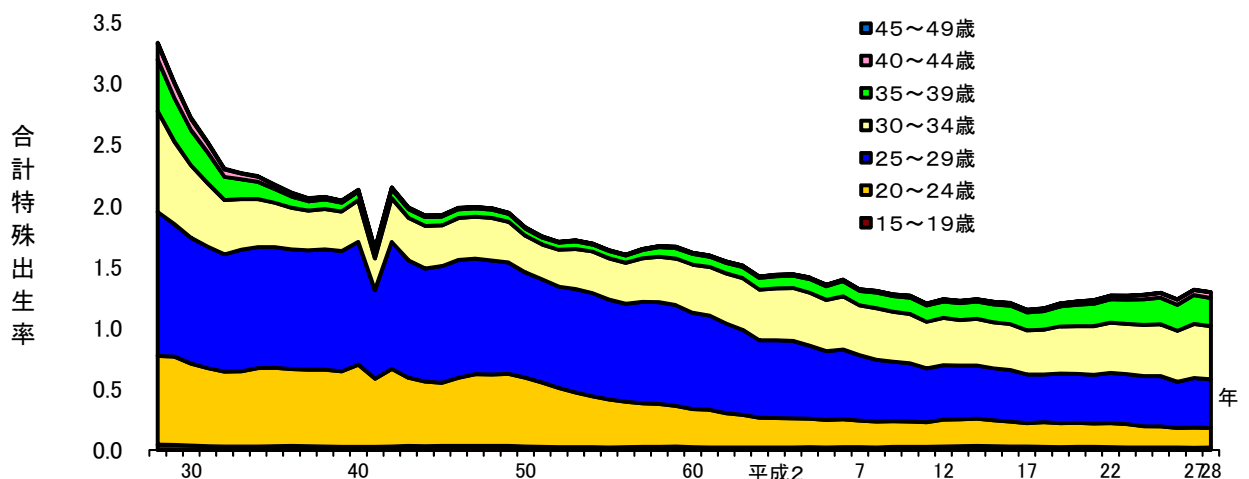
(4) 合計特殊出生率

合計特殊出生率の推移をみると、昭和25年は4.56と高い率でしたが、その後急激に低下し、昭和30年には3.0を割り、昭和30～40年代は「ひのえうま」（昭和41年）の特殊な動きを除けば2.0前後の水準で推移していました。昭和50年以降は再び低下傾向が続いており、平成17年には、1.15と過去最低値となりましたが、その後、増加傾向に転じ、平成28年は1.29となりました。

母の年齢階級別出生率でも、各年齢階級とも昭和25年から急激に低下しています。

昭和40年代になっても各年齢階級とも一定の水準で推移していましたが、昭和50年からは30歳代で上昇しているものの30歳未満の年齢階級では低下し、年齢階級毎に合計した合計特殊出生率は低下傾向をたどっています。（図2）

図2 合計特殊出生率の年次推移（年齢階級別）



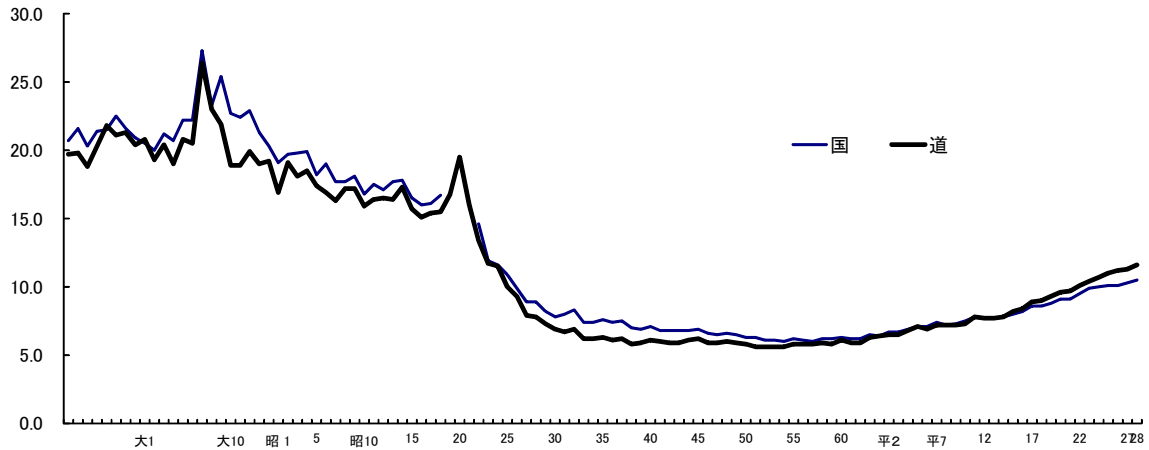
(5) 死亡

平成28年の死亡数は61,906人で前年の60,667人より1,239人増加し、死亡率（人口千対）は11.6で前年より0.3増加しました。男の死亡数は32,072人で前年の31,391人より681人増加し、女の死亡数は29,834人で前年の29,276人より558人増加しました。

死亡率（人口千対）の年次推移でみると、戦後急速に低下し、昭和30年代半ばから緩やかな低下傾向になり、昭和53年前後は5.6と最低の死亡率を記録したものの、その後は上昇傾向に転じています。

(図3)

図3 死亡率の年次推移(人口千対)



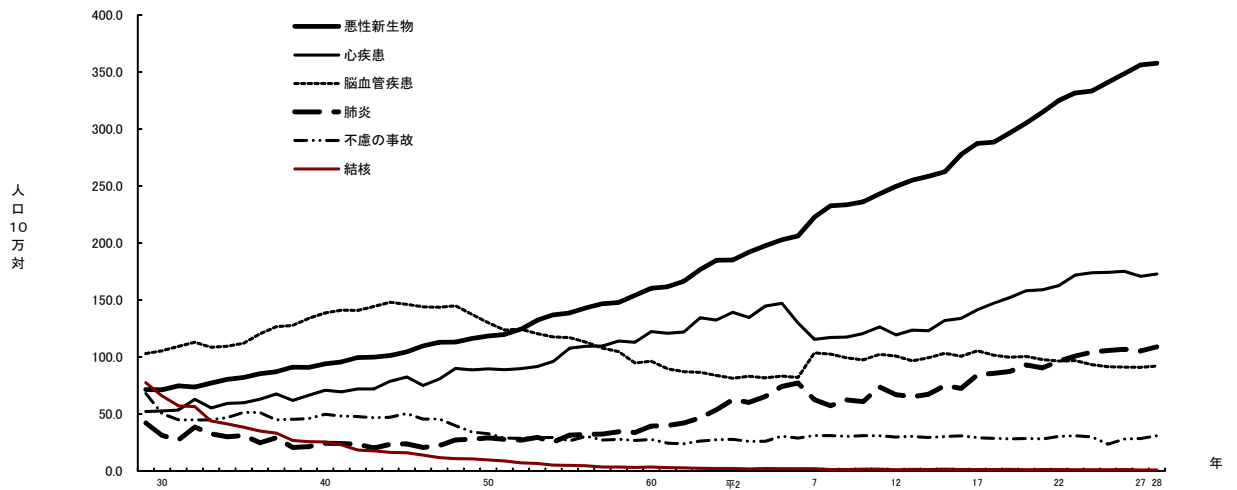
死因順位は、第1位は悪性新生物で19,179人・死亡率（人口10万対）357.8、第2位は心疾患で9,265人・死亡率172.9、第3位は肺炎で5,832人・死亡率108.8となっており、死亡総数に占める割合は、悪性新生物31.0%、心疾患15.0%、肺炎9.4%で、この3大死因が全体の6割近くを占めています。

(表3、図4、図5)

表3 死亡数・死亡率（人口10万対）・死因順位・性別

死 因	平 成 2 8 年										
	総数			男			女			全国総数	
	順位	死 亡 数	死 亡 率	順位	死 亡 数	死 亡 率	順位	死 亡 数	死 亡 率	死 亡 数	死 亡 率
全 死 因		61 906	1,155.0		32 072	1268.5		29 834	1033.8	1 307 748	1043.5
悪性新生物	1	19 179	357.8	1	11 075	438.1	1	8 104	283.4	372 986	297.6
心 疾 患	2	9 265	172.9	2	4 286	169.5	2	4 979	174.8	198 006	158.0
肺 炎	3	5 832	108.8	3	3 256	128.8	3	2 576	87.4	119 300	95.2
脳血管疾患	4	4 934	92.1	4	2 442	96.6	5	2 492	92.0	109 320	87.2
老 衰	5	3 394	63.3	6	842	33.3	4	2 552	80.0	92 806	74.1
不慮の事故	6	1 655	30.9	5	928	36.7	7	727	21.7	38 306	30.6
腎 不 全	7	1 586	29.6	7	791	31.3	6	795	27.1	24 612	19.6
自 殺	8	930	17.4	8	664	26.3	14	266	11.7	21 017	16.8
大動脈瘤及び解離	9	866	16.2	10	442	17.5	8	424	15.5	18 145	14.5
糖 尿 病	10	731	13.6	12	386	15.3	11	345	5.6	13 480	10.8

図4 主要死因の死亡率年次推移(人口10万対)



死因順位の第1位を占めている悪性新生物の部位別死亡率を年次推移でみると、男女ともに「肺」、「大腸」は上昇傾向を示しています。平成28年は、男の「大腸」は上昇していますが、その他は前年より減少しています。

また女は、「乳房」、「子宮」も上昇傾向を示していましたが、平成28年はともに前年より減少しています。

その他は、横ばい傾向となっています。(図6, 図7)

図5 平成28年主要死因の割合

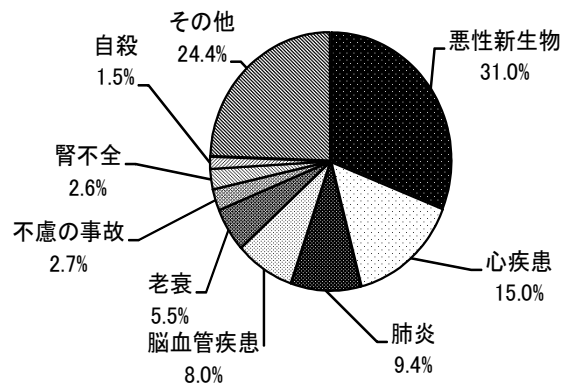


図6 悪性新生物の主な部位別死亡率(男)

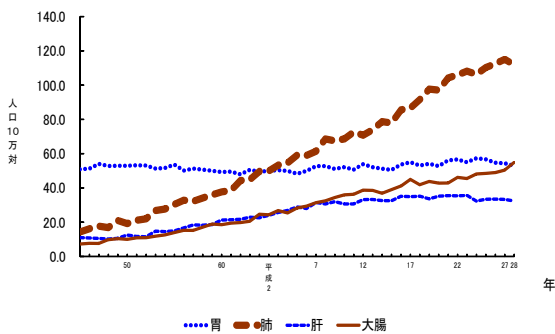
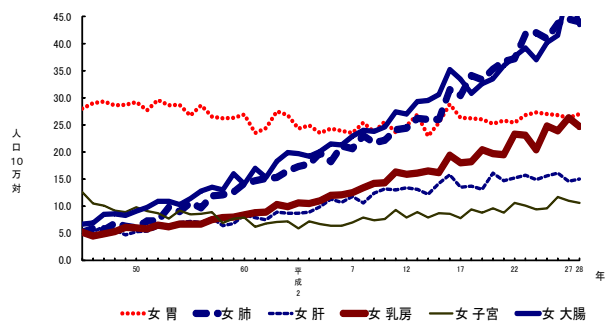


図7 悪性新生物の主な部位別死亡率(女)



### (6) 乳児死亡

平成28年の乳児死亡(生後1年未満の死亡)は76人で前年より3人増加しており、乳児死亡率(出生千対)も2.2で前年より0.2増加しました。死亡総数に占める割合は0.12%になっています。

乳児死亡率は昭和22年には82.8でしたが、その後一貫して低下傾向をたどり、昭和52年には10.0を割り、平成9年から3.0前後で推移し、平成20年から2.0台前半となっています。

(7) 死産

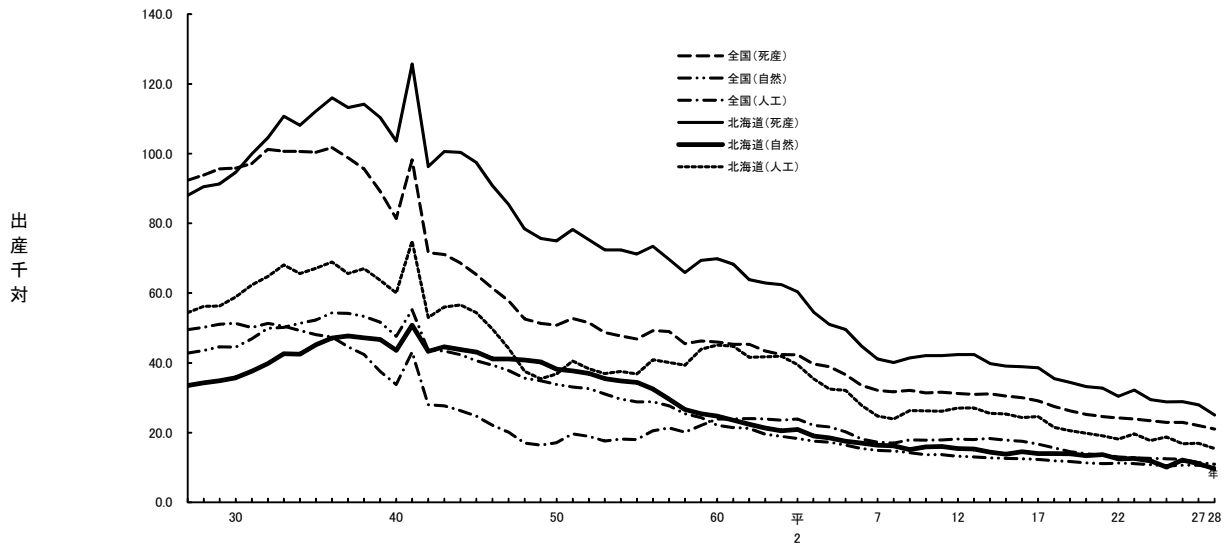
平成28年の死産数は901胎で前年の1,057胎より156胎減少し、死産率（出産千対）は25.0で前年より3.0減少しました。

自然死産数は345胎で前年420胎より75胎減少し、自然死産率は9.6で前年より1.5減少しました。

人工死産数は556胎で前年の637胎より81胎減少し、人工死産率は15.4で前年より1.5減少しました。

(図8)

図8 死産率(出産千対)



(8) 周産期死亡

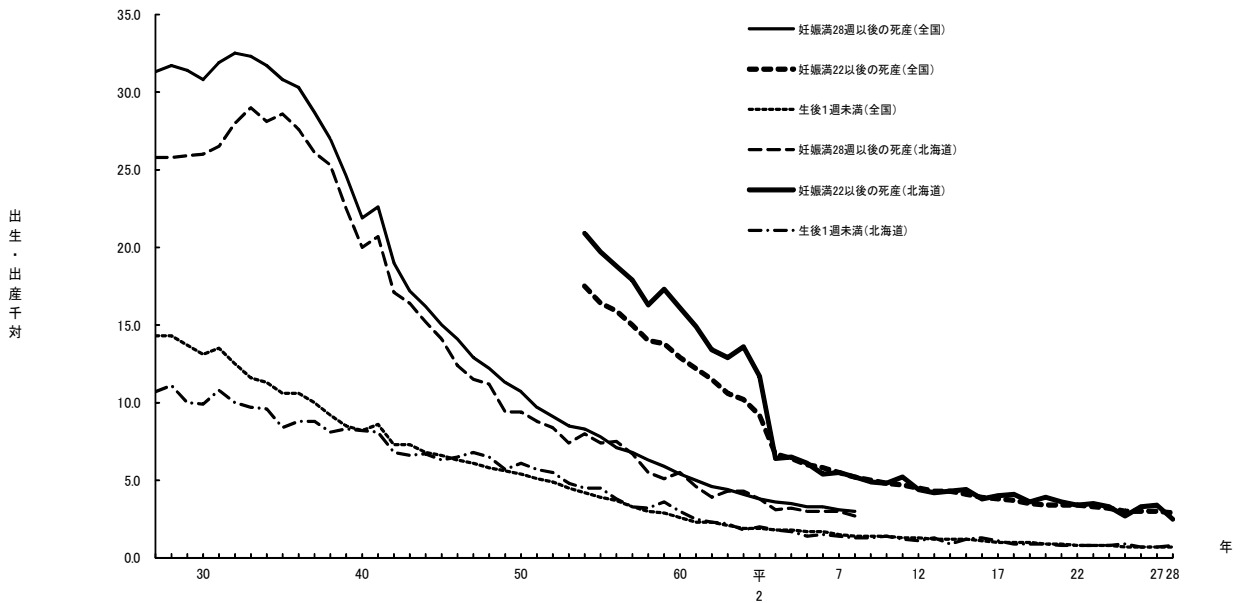
平成28年の周産期死亡（妊娠満22週以後の死産と生後1週未満の早期新生児死亡を合わせたもの）数は117で前年の152胎より35胎減少し、周産期死亡率（出産千対）は3.3で前年より0.8減少しました。

妊娠満22週以後の死産数は89胎で前年より37胎減少し、妊娠満22週以後の死産率（出産千対）は2.5で前年より0.9減少しています。

なお、早期新生児死亡数は28胎で前年より2胎増加しており、早期新生児死亡率（出生千対）は0.8で前年より0.1増加しています。(図9)

( \* 周産期死亡の妊娠週数は、WHOの勧告に基づき平成7年から満28週から満22週に改定されています。 )

図9 周産期死亡年次推移



### (9) 婚姻

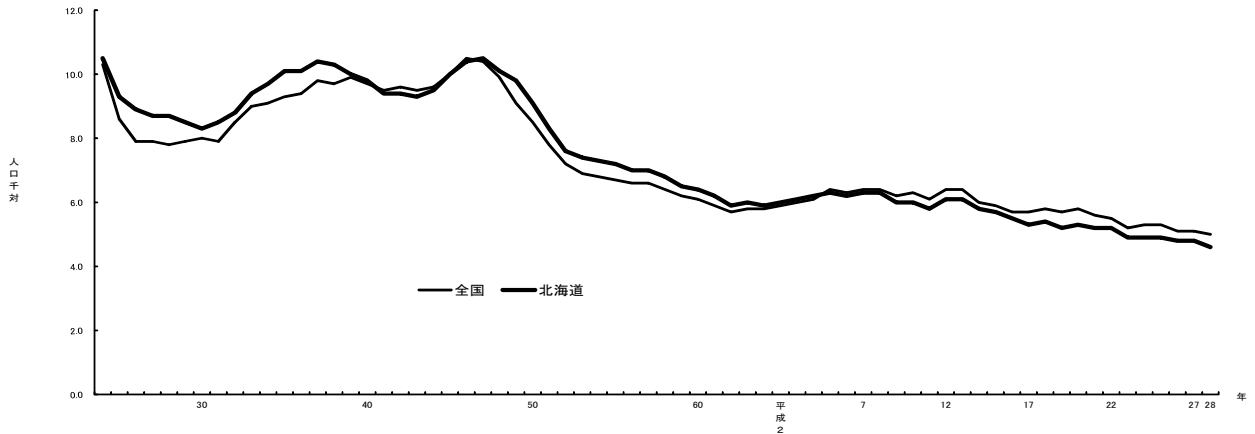
平成28年の婚姻件数は24,636件で、前年の25,465件より829件減少しました。

婚姻率の年次推移をみると、昭和20年代前半は10～11と高率でしたが、以後、急激に低下し、昭和30年には8.3まで下がりました。

その後上昇に転じ、昭和35～49年では1.0前後で推移していましたが、昭和50年から再び低下傾向が続いていました。

平成28年は4.6と前年より0.2減少しています。(図10)

図10 婚姻率(人口千対)の年次推移



平均初婚年齢をみると、夫30.7歳、妻29.4歳となって、第二次婚姻ブームの昭和47年の初婚年齢（夫26.0歳、妻23.8歳）と比べて夫は4.7歳、妻は5.6歳高くなっています。(図11、図12)

図11 平均初婚年齢の年次推移

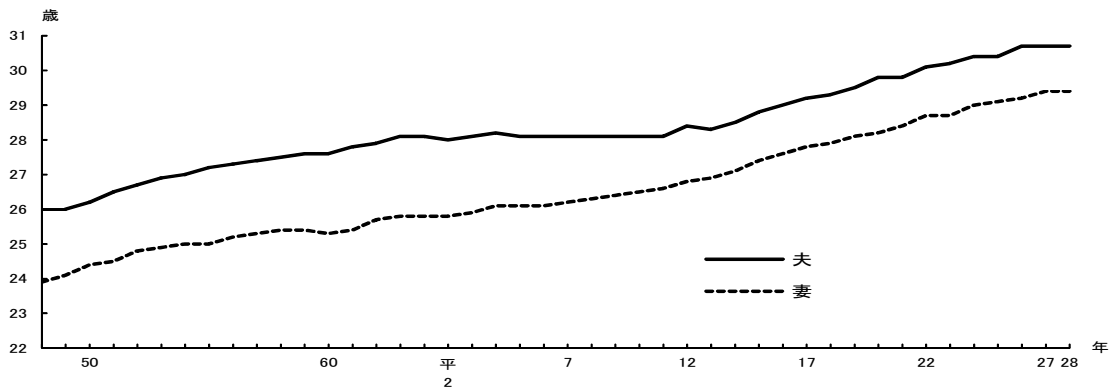
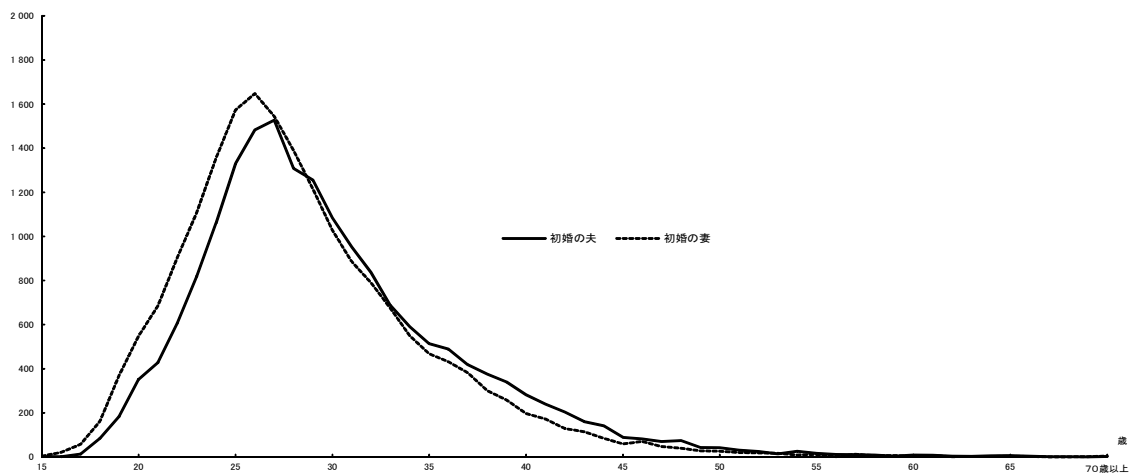


図12 夫初婚・妻初婚の年齢分布



(10) 離婚

平成28年の離婚件数は10,476件で前年の11,211件より735件減少しています。

離婚率（人口千対）は1.97で前年の2.09を0.12下回っています。

離婚率の年次推移をみると、戦後から昭和30年代まではほぼ横ばいで推移しましたが、昭和40年代から徐々に上昇し、昭和59年には2.33とそれまでの最高を記録しています。

その後、低下傾向にありましたが、平成3年から再び上昇し、平成14年には2.77と史上最高値を記録しました。（図13）

同居期間別の離婚割合では、5年～10年未満が最も多く、また年齢階級別でみると、30歳代が高い割合を占めています。（図14、図15）

図13 離婚率(人口千対)の年次推移

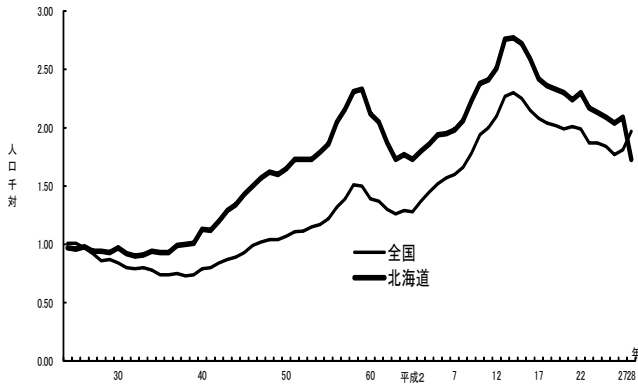


図14 夫妻の年齢階級別離婚件数割合

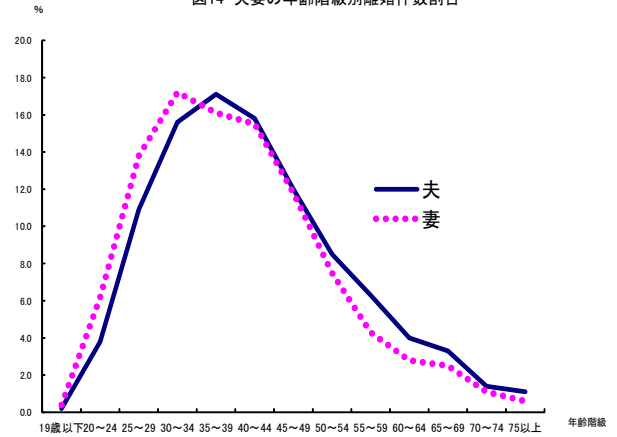


図15 同居期間別離婚件数割合の年次推移

